

IP 時代における電気通信番号の在り方に関する研究会
ワーキンググループ（第2回）議事概要

1 日 時

平成17年4月19日（木）14：00～15：00

2 場 所

総務省9階 第3特別会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 構成員

相田 仁（リーダー）、一井 信吾（サブリーダー）、荒本 和彦、栗野 友文、市来 裕教、稲田 晃典、大熊 博之、加藤 朗、加藤 義文、川村 正道、小出 利一、佐野 晋、澤田 和良、白澤 進、内藤 郁夫、西 和雅、西川 嘉之、堀内 泰樹、山田 博、吉田 敦（作業分科会）（以上20名）

(2) 総務省

金谷電気通信技術システム課長、門馬番号企画室長、深堀課長補佐、上野番号企画係長、藤原番号管理係長

4 議 事

(1) 第1回ワーキンググループ議事概要の確認

総務省より、第1回ワーキンググループ議事概要（案）について説明があり、修正等がある場合には、4月28日（木）17時までに総務省に連絡することとなった。

(2) 議事 「第1回ワーキンググループ宿題の報告」

総務省から、前回番号研究会での需要予測とその後の実際の番号指定数について、説明があった。相田リーダーより、概ね予測通りとなっているものの、番号が足りているときは良いが、不足する場合が問題であるため、そのような点に注意して見ていかなければならないとの指摘があった。

(3) 議事 「作業分科会の検討状況報告」

作業分科会を代表してNTTの吉田氏より作業分科会検討結果の報告があった。結論として、固定電話番号ポータビリティにおける二重番号の利用を廃止した場合には、20年後までひっ迫の回避が可能であるが、実現には一定の期間を要する、それまでの当面の対策として、市内局番の先頭が1や0で始まる現在使われていない局番を暫定的に裏番号として利用することが提案された。

相田リーダーより、VoIP の普及等の状況変化を考慮しても、本提案は適当ではないかとの意見があった。

(4) 議事 「1XY 番号に関して」

西川構成員より前回の提案（料金・営業案内サービスのための新たな1XY 番号を付与し、他事業者からも接続可能とする）について次のような補足説明がなされた。

現在保留中の47個の1XY 番号のうち10番号を料金・営業案内サービス提供用番号として解放する。

上記番号の利用について事業者へのアンケート調査を行い、需要を事前に調査する。

これに対し、構成員より以下のような意見が出された。

固定事業者や携帯事業者の数を考慮すると10個では不足ではないか。

事業者別に1XY 番号を付与すると、番号によるサービス認識が難しくなりユーザーの混乱を招くのではないか。

短い桁数で実現できユーザーが事業者識別も可能な案として、事業者識別番号だけをダイヤルするとユーザー向け窓口に接続される案も考えられる。

今後メーリングリストを利用して継続審議することとなった。

(5) 議事 「その他」

相田リーダーより、ワーキンググループメンバーにも親会の論点整理をフィードバックすべきとの提案があり、次回紹介することとなった。

本ワーキンググループの検討状況について、相田リーダーから次回の親会へ報告することとなった。

(6) 次回会合スケジュールについて

次回ワーキンググループ会合（第3回）は、5月下旬か6月上旬を予定しているが、事前に報告書案を照会した上、別途総務省より連絡することとなった。

以上